

発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/

編集人 田中 伸哉  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## CONTENTS

- (1) ・副会長就任のご挨拶……………佐久間一郎  
・副会長就任のご挨拶……………吉岡 充弘

---

- (2) ・名誉教授  
三浦 祐晶先生 (20期) を偲んで  
……………大河原 章 清水 宏  
・北海道医師会会長就任にあたって  
……………長瀬 清  
・先生ご無沙汰しています  
……………小柳 知彦

---

- (3) ・医学部創立100周年記念事業について  
……………笠原 正典  
・フラテ祭2015開催報告

---

- (4) ・第54回北海道大学医学展総評  
……………田中 翔  
・平成27年度 フラテ研究奨励賞  
受賞候補者の募集!!  
・告知板

---

- (5) ・フラテ102号発行のお知らせ  
・事務局からお知らせ  
・新刊書紹介

---

- (6) ・新刊書紹介  
・ご逝去者  
・一面の写真説明  
・編集後記



「美瑛・青い池」

うすい はつき  
白井 葉月(89期)



### 副会長就任のご挨拶

さくま いちろう  
佐久間 一郎 (55期)

この度、浅香正博会長のご推挙をいただき、学外よりの副会長として大任を仰せつかりました。間もなく百周年を迎えるこの時期に、北海道大学医学部同窓会の副会長に就任させていただき、身の引き締まる思いです。

私は祖父が1期、父が28期卒であり、私が北大医学部を卒業した際には、まだ1期の先生がご存命でしたので、1期生の同窓会に家族として参加しておりました。そのようなこともあり、卒後1年目から同窓会の理事に加えていただき、以後35年以上同窓会のお手伝いをさせていただきました。気が付けば還暦も過ぎ、理事の中でも古参となり、副会長を拝命したのではと存じます。

私が医学部に在籍していた際に、浅香先生が委員長で「北海道大学病院研修医制度」が策定され、私は研修医募集を担当させていただきました。ところが厚労省の研修医制度開始以降、北大医学部卒業生の在籍先が不明となり、同窓会名簿にも空欄が多い期が増え、卒業生の北大医学部への帰属意識も低下したのか、同窓会の会費納入率も減少致しました。しかし2年前から、浅香正博先生の御英断により、医学部入学時から同窓会に入会するように規約が

改正され、現在はそれらが解消されつつあります。

一方医学部では女子学生が増え、その結果、出産・育児・家事を抱える女性医師にどのように活躍していただくが、医師不足解消の大きな課題であると思われまます。私は母、妻、娘が医師であり、それぞれの時代で、女性医師がどうすれば家庭・子供を持ちながらキャリアを向上させ得るのかを垣間見て参りました。現在、私は女性医師のキャリア向上に関する演題が全演題の3分の1という学会の理事・次期大会長ですが、北大医学部卒業の女性医師の応援もしたいと考えております。

最後に、2019年は北大医学部の百周年となり、その記念事業として、同窓会館の建設が企画されております。十億円以上の寄付を卒業生や関係各位より頂き、卒業生が同期会を開催できるファシリティも用意されることとなっております。是非、皆様の御協力をお願い致たく存じます。私の期 (55期) は、卒後40周年と重なります。率先して寄付すべく同期に声かけをすること、浅香会長をお支えすべく微力ながら尽力することをお誓い申し上げ、副会長就任のご挨拶とさせていただきますと存じます。



### 副会長就任のご挨拶

—医学部創立100周年に向けて—

よしおか みつひろ  
吉岡 充弘 (60期)

この度、浅香同窓会会長、幹事会の推薦および評議員会の承認を頂き、平成27年4月より寺沢前副会長の後を受けてこの任を務めさせていただくことになりました。会員数約6500名を擁する北海道大学医学部同窓会、その伝統と歴史を考えますとその責務の重さに身の引き締まる思いが致します。私は昭和59年に北海道大学医学部を卒業しました60期生です。大学共通一次試験を経験していない最後の期となりました。卒業後は直ちに齋藤秀哉名誉教授 (35期) が主宰されていた薬理学第一講座に大学院生として所属し、薬理学研究者への道を歩み始めました。現在は、恩師齋藤秀哉先生の教室を引き継ぎ、セロトニン神経系の機能的役割に関する研究を進めております。

同窓会活動につきましては5年と活動歴も浅く浅学非才な身ではありますが、これまで会計担当理事を務めさせていただいた経験を生かし、浅香会長を支え、平成29年には医学部創立100周年を迎えます母校と同窓会発展の為、微力ではありますが頑張る所存です。

これまで浅香会長の命のもと、「会員相互の親睦と母校の発展を期する」ために、様々なaction programが立案さ

れ実行されてまいりました。喫緊の課題である財政の健全化について、まずは同窓会費のコンビニからの振込と口座振替を可能にいたしました。この手法の導入は、会員への利便性を高めるだけではなく、会費納入率の向上に直結するactionであると期待しております。また、特筆すべきactionとして在学生の同窓会への入会があります。卒業前学生の同窓会入会への舵切りは財政の面からの想起ではなく、母校愛を、同窓会との関わりの中から涵養し、醸成することができればと考えたからです。同窓会はこれまで、医学部校友会に対し、医学展、懇話会および卒業祝賀会などの経費を補助し、陰ながら支援してきました。今後、同窓会は「主体的な在学生への関わり」を推進していかなければなりません。

北海道大学医学部は2019年に創立100周年を迎えます。この大きな節目にあたり、同窓会は更なる母校の発展に貢献できるよう、その「組織力」を高めるため尽力したいと考えております。あわせて会員の皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



### 名誉教授 三浦 祐晶先生(20期)を偲んで

第4代皮膚科学分野教授

大河原 章(37期)

第5代皮膚科学分野教授

清水 宏(会員2)

北海道大学名誉教授 三浦祐晶先生は、平成27年6月22日安らかに享年95歳の生涯を閉じられました。

三浦 祐晶先生は、大正10年5月5日北海道茅部郡森町にお生まれになり、北海道帝国大学予科医類を経て、昭和19年に北海道帝国大学医学部をご卒業になりました。その後、昭和24年に北海道大学大学院特別研究生を終了され、皮膚泌尿器科学講座(岩下 健三教授)に入局されました。昭和26年には同講

座助教授に昇進され、昭和31年に若干34歳の若さで北海道大学皮膚科学講座の第3代教授にご就任になり、昭和60年に定年退職までの29年間皮膚科学講座を主宰されました。先生のご研究の主体は、薬剤、特にサルファ剤の光線過敏性皮膚障害の機序に関する研究と、酵素組織化学的手法を用いた皮膚の物質代謝の動態に関する研究で、後者の研究の対象は主として「乾癬」の病態解明でありました。先生は日本皮膚科

学会理事を長年務められ、昭和39年と昭和59年の2度に亘って日本皮膚科学会総会・学術大会を会頭として札幌市で開催されるなど日本を代表する皮膚科学者として活躍になりました。

先生は昭和40年代半ばの学園紛争時には、北海道大学評議員として、また附属病院長として卓越した指導力を発揮され、昭和56年からは医学部長をも務められ、北大医学部の発展に大きく寄与されました。

こうした数々のご業績により、昭和43年北海道医師会賞、昭和59年社会教育功労賞、昭和60年には藍綬褒章を、更に平成7年には、勲二等旭日重光章を受章されました。

先生はスポーツ一般にも興味を持た

れ、昭和33年に創設された準硬式野球部の初代部長に就任され、優れた指導力で第一回の東日本医科大学体育大会での優勝に尽力され、その後定年退官迄部長を務められました。

先生は常に礼節を重んじられ、人としての生き方に厳しく、事に当たっては誠実に、smartに対処することを大切にされました。先生はこの世を大きく生きられた方です。先生が永眠され、先生の温顔にもう接することが出来ないのが残念で寂しい限りです。

謹んで三浦祐晶先生のご冥福をお祈り申し上げます。 合掌。

## 北海道医師会会長就任にあたって



ながせ きよし  
長瀬 清  
(40期)

去る6月13日に行われた北海道医師会定時代議員会に於いて、次期役員選挙が行われ引き続き会長を務めることになりました。5期目になります。監事及び一部の理事が変わりましたが、常任理事全員が留任となり、会務遂行が滞ることなく続けられ安心しました。

年の初めに北大の若手教授と話し合う機会があり、その時、札幌に規模の

大きな学会を行う施設がないことが問題で、何とかできないかと相談を受けました。会長としての最初の仕事は、コンベンションセンター建設へ向けての仕事になりました。最初に知事、市長、道及び議会議長に要請をすることを、山口北大総長を代表者とし3医育大学学長、研究科長と北海道・札幌市医師会会長連名で行いました。その後、経済界の主たる方々や新聞社等もまわりお願いしております。すべての方々の賛同を得、建設に向けて努力を約束頂きました。土地及び資金の問題がありますので、直ちに着手とはいきませんが実現に向けて頑張りたいと思っています。

医療現場では、難問が山積しています。喫緊の問題として、2025年団塊の世代の方々が後期高齢者となり、超高齢社会を迎えようとしています。それに対して、医療提供体制をいかにするかが直面する問題です。医療介護総合確保推進法の成立により、医療病床機能分化を行い、病気の急性期から回復期、慢性期そして在宅へと、医療と介護の連携を密に、包括ケアシステムを構築しようとしています。病床機能分化や医師・看護師等の人材育成に充てるため、医療介護総合確保推進基金(新基金)を創設しました。病院では、消費税率アップによる負担増が重くのしか

かり、病床機能分化による自院の在り方の方向性が定まらず苦慮しています。

その他にも、医療事故調査制度や新専門医制度の開始が迫り、どのような医療環境が出来上がっていくのか不透明です。

新専門医制度については、北海道では全国に先駆けて、医育大学、北海道、厚生局と道医師会の四者で協議会を作り、北海道にふさわしいあり方を模索していくことにしています。全国の模範となるような道筋が作られればと思っています。

官民を問わず医療問題を考え、良い医療制度を構築していくためにも、医師総てが一致団結し、協力し合い強い集団を作ることが、今、強く求められています。

北大医学部同窓の先生方には、強く後押しをお願い致します。

## 先生ご無沙汰しています



ながせ きよし  
小柳 知彦  
(40期)

大学を離れて早くも13年になります。医学部同窓会新聞はそんな大学の近況を知らせていただけるので、いつも楽しく読ませていただいております。そんな矢先、今回自分に役割がまわってきましたのでこれまでを振り返ってみます。

33年間在職した大学を定年で辞して第二の人生を釧路労災病院で歩む事になりました。大学では多くの人々にめぐまれ研究面でもそれなりの評価に値する成果を上げたとの自負がありましたし、在職中は次世代の医療を担う多くの若者を育成したとの気持ちも強く、外科系の自分としては手術も充分堪能させて貰い、加えて私を越える多くの優秀な泌尿器外科医が育ったとの気持ちがあったので、第二の職場ではアカデミアは忘れて院長職に徹する考えで臨みました。全国でも有数の実績を誇る釧路労災病院で、就任当初は順風満帆そのもので前任者が語られた“院長職

は教授職よりずっと楽ですよ”の言葉を信ずるほどでした。しかしそれも最初の数年、その後は国の施策に翻弄される事になります。1つは独立行政法人化で多くの国の関与する組織で共通の課題だった問題ですが、それまでの補助金依存の体質から“自分の足で立つ”事を求められる労災病院へ転じた時、700人余の職員の意識改革を先ず進めなければなりません。もう1つは卒後臨床研修制度の導入で、これをきっかけとして地方の医師引き上げが多くの地方病院で始まったのは御存知のとおりです。医師、診療科の集約化による地方医療の維持云々の美辞麗句を並べられましたが、結果的には釧路労災病院の四診療科の休診と14人もの医師の撤退で一病棟(50床)を閉鎖せざるを得ない危機に直面します。開院以来健全経営を誇っていた当院も初めて赤字に転じた時期の当事者だったわけですから。こうした局面の多くの病院が下降の一端を走り続け、縮小あるいは廃院の運命を辿る事は多くの事例が物語っている中、トップとして多くの職員とその家族の生活、ひいては医療を通じて地方都市の市民生活を守るのが自分に課せられた役割と任じて病院の再生に尽

力しました。任期7年の後半を意識改革の進んだ多くの職員と共にそれに徹したお蔭で、在任中に病院を再生する事が出来たのは何よりと思っています。

7年の任期を全うして生まれ故郷札幌へ戻ったのが6年前です。南区澄川にある仁檢会病院が会長として迎えてくれたのです。泌尿器科、血液透析、血管外科を専門とする100床の中規模病院です。元来一輩の臨床医を目指していた自分には今の仕事は適しています。週1回、それも水曜日午前みの外来診療が唯一のオブリゲーションですが、病院の計らいで予約制となっているのでじっくりと患者さんの悩み、訴えに耳を傾け、丁寧な診療が出来るのが強みです。50数年前卒業と同時に全科ローテーションのインターン1年、米国へ渡り外科レジデント2年の後専門の泌尿器科へ進んだ自分としては、最初の3年間で他科の視点も入れた診察をする事は原点に返った気持ちで実践しています。益々細分化され専門性が著しい最新の医療現場にあって、総合診療・プライマリケア的泌尿器科診療をする“老兵”にも活躍の場があると勝手に考えています。

時間に余裕が出来た事もあって北海道腎臓バンク、神澤医学研究振興財団、日米教育交流振興財団、労災保険審査委員会等の公職にも従事しています。また第99回日本泌尿器学会総会(名古

屋)アーカイブレクチャー「VUR」、第20回日本小児泌尿器科学会総会(秋田市)基調講演「尿道下裂」、第103回日泌総会(金沢)レジェンドレクチャー「私の履歴書」なども担当しました。この秋にはミシガン大学の同窓会(Reed M Nesbit Society)への出席を楽しみにしています。

他はもっぱら趣味の庭仕事に従事しています。自宅の裏は緑地保全地区指定の真駒内自然保護林に隣接しています。裏庭は芝生のオープンアウトサイドスペースとし、その端からの傾斜面はウォールガーデンとし、小路も設けて自然保護林へのアクセスを容易としました。全て森からの倒木、落木を利用した手作業を根気強く続けた賜物です。暇があればここで土木作業にも近い庭仕事で過ごしています。植栽した宿根の草木も増生し、その花や実を求めて多くの昆虫が、またバードフィーダーには沢山の小鳥が、裏山の森からはリスやキツネの小動物が訪れて賑わいを見せてくれます。緑豊かな我が家の裏庭での仕事は日頃の疲れを癒し明日への英気を養ってくれます。何か贅沢な日々にも聞えるかも知れませんが大学、釧路に次ぐこれが第三の人生だとしたら、これまでが結構楽しかったのも許してくれるのかなと自分で勝手に思っています。同窓の皆様の御健勝を願っています。

# 医学部創立100周年記念事業について



医学研究科長・医学部長  
医学部創立100周年記念事業  
実行委員会 委員長  
かさ はら まさ のり  
**笠原 正典**

北海道大学医学部は4年後の平成31年(2019年)に創立100周年を迎えます。この記念すべき節目を祝い、医学部の更なる発展を期するため、医学部同窓会及び後援会の支援のもと100周年記念事業を行うことになりました。この度、記念事業実行委員会において、事業の概要が決定しましたのでご案内いたします。

記念事業としては、まず、平成31年竣工を目標に「北海道大学医学部百年記念館」を建設します。アイソトープ総合センター北棟の向かいに、2階建て総面積800㎡程度の建物を建築する予定です(図参照)。記念館は医学部の他に同窓会が使用することを基本的な考えとし、医学部の歴史資料を見学できる

展示室のほか、サロンや会議室等を設けます。会議室は、同窓生の皆様が同期会を開催する場としても活用できるようにしたいと考えています。

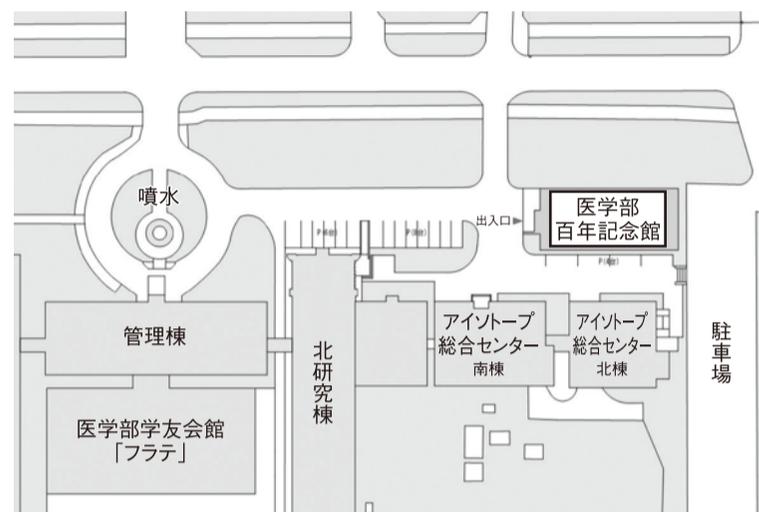
第2に、「北海道大学医学部教育研究基金」を設立いたします。法人化以降、国立大学では大学運営の基盤となる運営費交付金の減額が続いております。研究科独自の資金を確保し、それにより学生(学部生、大学院生)の奨学支援や留学生の生活支援、教職員の海外研修等支援、教育研究環境の整備を行っていきたくと考えております。

第3に、「北大医学部百周年記念誌」の刊行、記念式典等の挙行、DVD・記念グッズの制作を行います。創立90周年に際して、「北大医学部九十年史」、「写真集北大医学部九十年」が刊行されましたので、百周年記念誌には100周年を祝う寄稿と、90周年以降の10年間の歴史と写真を主として掲載する計画です。

上記事業を行うための募金の目標額は10億円とし、医学部百年記念館建築に5億円、教育研究基金に4億9000万円、百周年記念誌の刊行、記念式典等の挙行、記念グッズの制作に1000万円を投じる計画です。寄附金の募集は準備が整い次第、平成27年度中に開始し、平成32年度末まで継続する予定です。

実行委員会のもとに5つの小委員会(募金活動小委員会、医学部百年記念館小委員会、百周年記念誌刊行小委員会、記念式典等小委員会、広報小委員会)が設置されました。今後、浅香正博後援会会長(医学部同窓会会長)と密に連携を取りながら、記念事業の成功に向けて鋭意取り組んでまいります。皆様には事業の趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

すでに3回の実行委員会が開催され、



## フラテ祭2015開催報告

### フラテ祭実行委員会事務局

去る9月26日(土)、本年度で第九回目となる「フラテ祭2015」は北海道大学ホームカミングデーと同日に開催いたしました。同窓生、教員、学生父母、関連企業、医療関係者の方々など延べ約140名が参加されました。

開催会場は2010年7月に完成した医学部学友会館「フラテ」(以降、フラテ会館)のホールと大研修室で、例年同様、多くの参加者にお越しいただきました。

第一部では、施設・キャンパスツアーを行いました。ツアーコースは「医学部施設巡り」、「キャンパス巡り」の2つ設け、医学部施設巡りでは本年は新たに病院の施設である、陽子線治療センターも見学場所として加え、多くの方々にご参加いただきました。

第二部の講演会では笠原正典医学部長が「北海道大学医学部・大学院医学研究科の目指すものー現況と展望ー」、

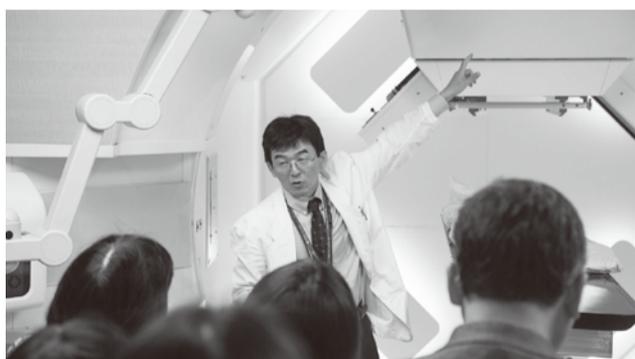
寶金清博北海道大学病院長が「北海道大学病院の現状と今後の展望」、小林博札幌がんセミナー理事長(北大名誉教授)が「がんに挑む がんに学ぶ」と題して講演されました。

その後、第十一回目となる音羽博次奨学基金授与式が行われ、12名の学生に奨学基金が授与され、華やかなうちに式典が終了しました。

第三部のフラテ交歓会は、ホールに

て、吉岡充弘フラテ祭実行委員長の開会挨拶、北大男声合唱団とピアノ伴奏による「都ぞ弥生」・「学友会歌」の合奏が披露されました。その後、場所を移して大研修室では、浅香正博同窓会会長の祝杯により開宴し、祝宴では学生による弦楽四重奏に耳を傾けながら和やかな雰囲気で行われました。また、現役医学部生による公認サークルの紹介があり、父母の方々をはじめ、多くの方が興味深くご覧になっていました。そして、同窓生と北大男声合唱団が一体となり「都ぞ弥生」を合唱しました。最後には寶金清博北海道大学病院長による一本締めにて閉会されました。

多くの方のご支援とご協力をいただき今年も無事にフラテ祭を終えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。



第1部 施設・キャンパスツアー



第2部 特別講演～小林博名誉教授



音羽博次奨学基金授与式～笠原研究科長挨拶



音羽博次奨学基金授与式授与者記念撮影



第3部 男声合唱団とピアノ伴奏による都ぞ弥生



第3部 学生による弦楽四重奏



第3部 浅香正博同窓会会長の祝杯



第3部 現役医学部生による公認サークル紹介



第3部 吉岡教授による100周年事業の概要説明



第3部 寶金病院長の終焉挨拶

# 第54回北海道大学医学展総評



第54回北海道大学  
医学展実行委員長

田中 翔  
(医学科4年)

今年度の医学展は北大祭期間中2日間の開催で、合わせて約6000名の市民の方々に来場いただき、例年以上に盛況となりました。医学部の屋内外4会場を中心として「医学生」と「市民」の交流を第一に考えた展示を行い、市民の方々には医学をより身近に感じていただける場となるよう、また医学生スタッフにとっては講義で学ぶ医学知識に対する深い理解と共有の数少ない機会と

なるような企画を実施致しました。

当日は小中学校の子供たちから北医志望の高校生、福祉センターの高齢者の皆様まで幅広い年齢層の方々にお越しいただきました。天気にも恵まれて昨年度惜しくも中止致しました救急体験企画のドクターヘリ見学会を予定通り行うことができたほか、内容を充実させたハンディキャップ体験企画の盲ろう体験会や科学体験企画の手洗いチェック、骨格工作といった今年度より導入した新企画も想定以上の人気で長蛇の列を作りました。第54回医学展ではこうした検査・救急・科学・ハンディキャップの体験や講演会といった主要企画以外にも、医学部機

関による展示や医学部学友会公認の部活動による模擬店などが行われ、第57回北大祭のなかでも医学展は大規模なイベントとなり来祭者に人気となりました。なお、企画の詳細につきましては北海道大学医学展ホームページ【<http://hokudai-igakuten.org/>】並びに医学展公式 facebook / twitter をご覧いただけますと幸いです。

医学展はその運営を私たち医学科学生の有志が担っておりますが、脈々と受け継がれて今年で54回を迎えました。1962年度より続く歴史のある催しであり、企画を時代に合わせて変えつつも、毎年多くの市民の方々に北大医学部を紹介するイベントとなっております。

今年度も大きなトラブルなく無事開催することができました。今回の医学展開催にご支援・ご協力下さいました大学各局、企業、法人の皆様がこの場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

同窓会新聞をお読みになっておりますOB・OGの皆様におかれましても、引き続き医学展の開催に対しご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。私ども北海道大学医学展実行委員会へのご意見・ご要望などございましたら、医学展実行委員会のメールアドレス【[office@hokudai-igakuten.org](mailto:office@hokudai-igakuten.org)】までご連絡下さい。

## 平成27年度 フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

### 《フラテ賞》

- ・平成27年度北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに48名の方々が受賞しています。
- ・第13回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

### 《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

### 《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格  
平成27年度末（平成28年3月31日）現在、40歳未満である本会会員で、年会費を完納していること。
- ・募集期間  
平成27年12月1日から12月31日までの1ヵ月間です。

### 《応募書類等》

- ・応募書類（申請書、推薦書、業績別刷）の提出部数は6部（コピー可）とします。応募書類は一切返却しません。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書きし、郵送または持参すること。年末年始の期間中同窓会事務局は閉室ですのでご注意ください。

### ①郵送は必ず「簡易書留」として

ください。12月31日までの消印のあるものは有効とします。

②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。

### ③郵送（持参）先

〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部内  
北海道大学医学部同窓会事務局

・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてご使用ください。北大医学部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会

検索

### 《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、平成28年2月8日(月)開催の同窓会総会で行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話：011-706-5007

E-mail：[furate@med.hokudai.ac.jp](mailto:furate@med.hokudai.ac.jp)

## 告知板

### <教授就任挨拶>

獨協医科大学医学部公衆衛生学講座主任教授



こばし けん  
小橋 元 (65期)

平成27年4月1日付で上記を拝命いたしました。私は平成元年に卒業後、産婦人科学教室、公衆衛生学教室(予防医学講座)で藤本征一郎教授、近藤喜代太郎教授、岸玲子教授、玉城英彦教授の薫陶を受けました。平成18年より放射線医学総合研究所にて、辻井博彦理事(44期)、鎌田正センター長(55期)にお世話になりました。ご指導に心より感謝申し上げます。獨協医科大学では野原裕副学長(49期)のもと、北大に似た緑豊かな爽やかな環境の中で「社会から信頼される医師・研究者・人間づくり」に邁進します。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新潟大学皮膚科学分野教授



あべりいちろう  
阿部理一郎 (70期)

平成27年9月1日より皮膚科学分野准教授を辞し、新潟大学皮膚科学分野教授に就任いたしました。北大医学部同窓では、以前北大解剖学助教授として学生時代に教えて頂いた牛木辰男教授が新潟大学医学科長を勤められておられ、また医学部野球部同期の放射線科の青山英史教授がおられます。北大在任中は皮膚科学分野の大河原名誉教授、清水教授をはじめ多くの同窓の先生方に変にお世話になりました。今後も、皮膚科学の発展への寄与と地域・社会に貢献できる人材の育成を目指し、教育診療および研究に一層精進したいと思います。

北海道薬科大学 薬物治療学分野 教授



みづら じゅん  
三浦 淳 (70期)

本年4月、北海道薬科大学薬物治療学分野の教授に就任しました。私は平成6年に北大医学部を卒業後、精神医学講座に入局し、大学と関連病院で臨床・研究の指導を受けました。学位取得後、弘前大学とカロリンスカ研究所(Bertilsson教授)で薬理遺伝学研究に従事しました。具体的には、薬物代謝酵素(CYP)や薬物標的部位の遺伝型と、薬理効果・副作用との関連についてです。今の職場では、薬剤師国家試験合格のための教育が至上命題ですが、その傍ら、個人のゲノム情報に基づく治療、すなわち個別化薬物治療を目指した研究を推進しております。

### <学内・院内人事異動>

#### <割愛>

平成27年 9月1日 阿部理一郎(70期) 皮膚科学分野准教授  
(新潟大学皮膚科学分野教授)

#### <採用>

平成27年 7月1日 加藤 将(79期) 内科Ⅱ助教  
中積 宏之(80期) 腫瘍センター助教

平成27年 8月1日 三田村 卓(77期) 婦人科助教

平成27年10月1日 橋本 直樹(76期) 精神科神経科助教

#### <昇任>

平成27年10月1日 渡利 英道(65期) 婦人科准教授(同科講師)

樋田 泰浩(67期) 地域医療連携福祉センター准教授(同センター講師)

白石 秀明(68期) 小児科講師(同科助教)

納谷 昌直(73期) 循環器内科講師(同科助教)

橋田 岳也(74期) 泌尿器科講師(同科助教)

藤田 靖幸(78期) 皮膚科講師(同科助教)

加瀬 諭(会員2) 眼科講師(同科助教)

# フラテ102号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の暖かいご支援により、今春発行の101号も大変ご好評をいただきました。

さて我々フラテ編集部では今年度もフラテ発行に向けて準備を進めております。102号の発行は、来年3月上旬を予定しております。購読をご希望の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願い致します。注文および支払方法を、郵便振込みによる前払いとさせていただきますことにご理解をお願い致します。

また、当編集部には101号以前の残部もございます。ご希望の方は、102

号をお申し込みの際に、振込用紙にその旨をお書き添え下さい。別途、送らせていただきます。

なお、フラテの申し込みは9月と1月の2回のほか、101号巻末の払込用紙においても受け付けております。すでに101号巻末の払込用紙にて申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。

また、101号を申し込まれた方で、まだお手元に届いていない方もどうぞフラテ編集部までご一報ください。

### <102号の主な内容>

- ・特集記事「震災から四年、福島の今(仮)」
- ・フラテ各地に行く～静岡編～
- ・教室便り(医学部の各教室のご紹介)

- ・学年紹介(学生の他己紹介)
- ・新任教授インタビュー
- ・各講座新旧名称一覧
- ・フラテ茶苑(先生方の御寄稿文)
- ・学生の広場(学生の寄稿文)など

### 【フラテ茶苑 寄稿者募集】

フラテ茶苑では、ご卒業の先生方のご寄稿をお待ちしております。原稿執筆を希望される先生は、フラテ編集部まで原稿をお送りください。学生時代のお話、専門分野のお話、趣味のお話など、内容に指定はございません。また、字数に制限はございません。原稿につきましては、こちらで編集処理を行いますので、どのような形式でも結構です。掲載を希望される写真や図などございましたら、併せてお送りください。ま

た編集作業の都合上、原稿は10月末を目途にお送りいただきますようお願い申し上げます。沢山のご寄稿をお待ちしております。

※フラテ茶苑へのご寄稿の他、フラテ編集部へのご連絡・ご照会は下記宛にお寄せくださるよう、お願い申し上げます。

### <お問い合わせ先>

フラテ編集部  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目北海道大学医学部内  
TEL/FAX 011-736-1444(留守電あります)  
E-mail:frate.med@gmail.com

# 事務局からお知らせ

## ご寄付の報告とお願い

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。

平成27年6月11日  
42期 西 信三様 金200,000円  
平成27年8月6日  
鹿児島市 医療法人藤田眼科  
藤田晋吾様 金 10,000円  
以上、ご報告申し上げます。誠に有難うございました。

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。



### ○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費を原資として運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ○会費納入方法

次のいずれかにより納入してください。

#### 1. 口座振替

- ・会員の指定する金融機関口座(ゆうちょ銀行を含む)から振替集金し、納入する方法です。
- ・店頭へ行って納入する手間が省けます。また、納入忘れがなくなり、とても便利です。
- ・希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。  
電話：011-706-5007

## 同窓会費について

### 2. コンビニ納入

- ・毎年6月の同窓会新聞に同封される払込票により、お近くのコンビニで納入してください。受領書は捨てずに保管してください。
- ・未納会費がある会員には、同窓会新聞を郵送の都度払込票を同封いたします。

### 3. 銀行振込

- ・北洋銀行、北海道銀行の同窓会口座に振り込むことができます。手数料はご自身の負担となります。
- ・各銀行に備え付けの振込用紙を利用し、受取書は捨てずに保管してください。
- ・振込先銀行、口座番号は「コンビニ払込票」の裏面をご確認ください。
- ・同姓同名の混乱を避けるため、氏名の前に、必ず卒業期を記入してください。
- ・【記入例】 50キ サトウ イチロウ

### ○会費未納者と刊行物の送付

- ・過年度会費が2年を超える会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
- ・納入が9月30日を過ぎると、納入確認及び印刷部数確定の都合により、お届けすることができません。

### ○会費免除者と刊行物の送付

- ・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。
- ・35期は平成27年度から、36期は平成28年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、随時募集を行っています。

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話：011-706-5007  
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

## 新刊書紹介



「随筆集 手帳のありか」  
(旭図書刊行センター)  
よし だしょうへい  
吉田庄平(大里睦美)(26期)  
(購読ご希望の方は、ご本人あるいは同窓会事務局宛にご連絡をお願いいたします)

本書は、北海道アララギに属する筆者が10年に渡り連載した随筆の書籍化である。歌集での連載とはいえ、一冊通じて実際の和歌は斎藤茂吉、万葉集のほか歌会も含め数える程で、また医学的な内容も、ご自身の血管炎をまた同門のご子息が診断しえた場面など、所々僅かに登場するのみである。

内容の殆どでは、淡々としつつ時に優しく繊細、また時には辛辣と思える自由な筆致で、海外はギリシャ、メキシコ、インド、シリア、ヨルダン、パリ、南アフリカ、国内では奈良や神戸、東

京など旅先の風景や出会い、家族の戦前から戦後、平成の生活、健康や季節の話題、アベノミクスに至るまで、時間空間を縦横に描写している。

言葉を磨いた芯だけで醸造した淡麗な吟醸酒が和歌とすれば、本書は、同じ米でも磨ききらず複雑な広がりを残し醸造された芳醇な純米酒の側だが、文章は平易で読みやすく、戦前の話や老い話がなければ、卒業期で数えて半世紀近くの大先輩の著した文と思わず膝を打つ内容も多い。

現在、インターネットの発達にも関

わらず140文字制限のツイッターが隆盛を極めているが、人間の感覚は31字の和歌からそうも進化しておらず、感性と表現の豊かさが心を動かせるのは、時代や年代を問わないからであろう。

第一線を離れる頃には、斯くも愉しく健康な日々を送りたいと思わされる一冊であり、特に、自らの行く末を未だ意識する暇の無い先生方にこそ手に取っていただきたい。

(75期 石田雄介)



「止血・血栓ハンドブック」

すずき しげのり  
鈴木 重統(39期)  
まつのかずひこ  
松野 一彦(48期)他編  
西村書店  
¥9,180

血栓・止血、凝固・線溶は、止血すると同時に血液の流動性を保たなければならない複雑な生体防御のシステムであり、その仕組みはとりわけ精妙でなければならない。生物は、飢餓と怪我との長い闘いの中で血管に傷害を受けると、迅速に止血を行う機構を進展させてきた。しかしヒト社会の発展に伴って、動脈硬化という新しい病態の出現を迎え、出血から身を守ってきた血液凝固系が、逆に血栓症という病気を作るメカニズムとして働くようになってしまった。

本書は、そうした時代における止血・血栓、凝固・線溶の研究と臨床に携わる70名以上のエキスパートによる止血・血栓、凝固・線溶の基礎的な働き のわかりやすい解説に始まり、呼吸器疾患や循環器疾患などの様々な疾患における止血・血栓、凝固・線溶の関わる病態の解説にいたるまですべてを網羅している良書である。特記すべきは編者の鈴木重統先生の信念に基づいて、「妊娠・分娩と止血・血栓」という章が別に設けられており、産婦人科領域における止血・血栓、凝固・線溶のスタンダードが示されたことである。妊娠・分娩に伴う止血・血栓、凝固・線溶の異常は、母子2つの生命に影響する重大な病態をもたらすものであり、今や産科医療における最も重要な分野となっており、まさに時宜を得た出版と考えられる。最新の止血、血栓領域の知識は分野の異なるすべての医師にとって必要事項と思われるので、北大医学部同窓生の方々には是非一読をお勧めしたい。

(48期 浅香正博)



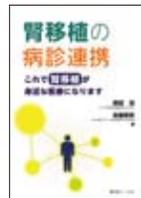
「アジア旅行者のための感染症対策 改訂版」

ほんだ とおる  
本田 徹(49期)他著  
連合出版  
¥1,836

本書の編著者の本田徹君は私と1966年入学同期ですが、彼は乗馬と馬の世界にのめり込んで、1年多く母校で学ぶことになりました。しかし私が最も尊敬する入学同期です。彼はその後北大小児科を経て、1977年青年海外協力隊ボランティアとしてチュニジアに2年派遣され、日本とは全く異なる環境の中で、戸惑いながらも診療及び住民の健康支援を行いました。帰国後は佐久総合病院で、若月俊一院長の薫陶を受け、農村医学を学び、プライマリヘルスケアの重要性を認識されました。その後シェアの活動や山谷での無料診療等の活動で、第16回若月賞・第20回毎日国際交流賞・第5回沖縄平和賞など多数受賞されています。

本書は2003年11月に出版された同書の改訂版であり、本田君のグローバルな人脈が発揮された実用書です。前版後、デング熱の日本上陸や、エボラ・ウイルス病やMERS（中東呼吸器症候群）の西アフリカや中東、韓国での流行などがありました。本書ではこれら新しい感染症の知識を、分かり易い読み物として提供し、正しい知識の基、旅行先の国々の食や人との交流を楽しめることを意図しています。そして著者はいずれも研究者・臨床家・NGO等の活動家の医師であり、なおかつ感染症で患者さんが死ぬのを経験したのみでなく、彼ら自身が患者としての体験もしており、その内容は皆様の心に届くことでしょう。また巻末の海外感染症情報の入手先や予防接種等の資料も有用です。

(48期 山田 豊)



「腎移植の病診連携」

ほらだ ひろし  
原田 浩(63期)他編  
医薬ジャーナル社  
¥4,536

わが国の腎移植の成績は著しく向上しており、生体腎移植では10年生着率が90%に及ぶ。かつてのように、一定の期間のみ透析療法から離れることが出来れば良しとしていた時代とは隔世の感がある。腎移植は、もはや末期腎不全に対する最良の腎代替療法であり、生涯療法である。他の多くの疾患では、治療が安定した段階で地域の医療機関がその継続を担ういわゆる病診連携の姿勢が現在の医療の理想であるが、腎移植のフォローアップ施設が増加している訳ではなく、依然限りある施設で、増加している移植患者の診療に対応している。移植患者が通常の疾患に罹患しても、地域の医療機関からは敬遠され、わざわざ遠方の腎移植施設での加療がなされているのが現実である。

わが国の腎移植のハイボリュームセンターの一つである市立札幌病院の原田浩医師が中心となり編集した「腎移植の病診連携～これで腎移植が身近な医療になります～」は、腎移植患者が、腎移植施設以外の医療機関でも一般診療を受けられることを目指して企画された書籍である。対象は一般医である。難解な内容は含まず、腎移植治療の概要や最新の知見、腎移植後の疾患の診療のポイントを中心に、腎移植外科医、内科医、他の診療科医が病診連携の視点も踏まえ執筆担当し、理解しやすいQ&A形式で記載されている。加えて、腎移植をより広く、至適なタイミングで行えるような腎移植施設への紹介についても記載されている。腎移植が安全に、普及するためにすべての医療者にとって必読の1冊である。

(60期 篠原信雄)



「自分らしい最期を生きる—セルフ・スピリチュアルケア入門—」

もり きよし  
森 清(63期)著  
教文館  
¥1,404

著者との出会いは約10年前の東京フ ラテ会である。得難い人材と見込んで誘ってふられた経緯があるが、その後覚えていてくれていたようで突然現れ仲間に加わってくれた。今では組織（社会医療法人財団大和会）になくはならない存在だ。

今回新刊書紹介の原稿を頼まれたが、書評などという大それたことは単細胞の小生には無理なので、この本を著したいまの背景を簡単に紹介し書評にかえさせていただくことにした。ただ、個人的感想として“在宅医療にはこんなにも感動とドラマがあったのか”という驚きと、以前から心に決めていたことだが“やはり最期は住み慣れた我が家だな”と意を強くしている。早速女房にも読んでもらい暗に小生の最期の希望を伝えたつもりである。本の中身は読んでのお楽しみだ。

著者は現在、社会医療法人財団大和会の在宅部門の総責任者として活躍している。東京の郊外にある東大和市と武蔵村山市を中心に精力的に在宅医療を推し進めているが、大和会のビジョンである“この地に保健・医療・福祉・介護の理想郷をつくろう”をまさに先頭に立って実行している。また、多死時代を迎えようとしているいま、行政も医師会もやらねばならぬこと盛りだくさんだが、その中であって指導者としても活躍している。地域にとっても著者の存在は大きい。

(42期 高橋武宣)

ご逝去者

新聞151号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成26年			6月18日	千葉 壽良	専5
10月24日	望月 政司	21	6月19日	加藤 莊一	29
平成27年			6月21日	藤田 俊弘	57
1月10日	後藤 三雄	31	6月22日	三浦 祐晶	20
1月17日	西岡 健	64	6月25日	岩田 都之	36
2月8日	沢住 和夫	専旧7	7月22日	有波 敏明	30
3月1日	今村 信夫	専4	7月24日	安田 寿一	会員2
3月29日	岡田 徹	34	7月27日	品田 茂	23
4月7日	堀田 美佐子	64	7月28日	鈴木 寛一	25
4月8日	堀口 泰司	専1	7月30日	佐藤 利佳	67
4月12日	佐々木 幸弘	33	8月2日	野尻 慶一	37
4月23日	高山 彰	25	8月3日	齋藤 隆之	43
4月30日	桑野 潔	40	8月14日	大柳 和彦	38
5月1日	中島 庄蔵	専旧7	9月4日	寺沢 浩一	54
5月10日	川岸 悦郎	24	9月12日	水内 龍一	専5
5月13日	野口 豊	29	9月20日	金山 尚武	34
5月16日	森 俊	28	9月21日	鈴木 力	32
6月13日	曾 匡如	専3	9月30日	小坂 昌道	40

一面の写真説明

「美瑛・青い池」

白井 葉月(89期)

北海道には秘湖が多くありますが、中でも2012年にApple社がMacの壁紙に採用して世界的に有名になったのが、美瑛の青い池（正確には人造池、つまり水たまりですが）です。私の初訪は2010年夏、以来その美しさに魅了されて幾度も足を運んでいます。夏空の下では涼しげな乳青色に、厳冬には透明感のある深い青に、季節毎の色の変化を楽しむのも一興です。

編集後記

152号をお届けします。私自身、卒後四半世紀となり、学生時代にお世話になった恩師と一緒に活動した友人の『今』が気になり、同窓会新聞のなかに知ったお名前を探すことが増えてきました。特に同じ時間を過ごした同期の活躍の知らせは自分のことのように嬉しく、自分ももっと頑張らなければと

励みになったりします。さらにお会いしたことはないけれど、日々の仕事を通じてお名前だけを記憶している先生がたのことも、同じ環境で同じような学生時代を過ごされたのだと思うと、勝手ながら何となく身近に感じてしまうのは私だけでしょうか。

(66期 長 祐子)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
<http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表 (011) 750-2205

■お詫びと訂正

同窓会新聞151号におきまして誤りがありました。6ページ3列2行目「聴象」と記載したのは、正しくは「聴衆」です。関係の皆様にお詫び申し上げます。